

参考

平成31年度
学内AO入学試験4期 筆答試験問題

千葉商科大学大学院
政策情報学研究科

次の2つの課題の中から1題を選択し、日本語で1,500字程度で解答しなさい。

	問 題
課題1	<p>昨今また話題の「Virtual Reality」であるが、コンテンツを重視する日本ではその概念に関し齟齬がおこっており、研究者の間でもジレンマとなっている。</p> <p>Virtual Reality の日本語訳は一般的に「仮想現実」と訳されているが本来「Virtual」の意味は「実質上の」、「事実上の」という意味である。</p> <p>コンピュータで出力した環境を利用し実感を伴ったフィードバックを得ることで現実空間では不可能な実験結果や、時間、空間を越えた経験を得ることを目的に「現実そのものではないが実質上は現実とみなせる空間」を実現させる研究であり、Virtual Reality 以前では Artificial Reality と呼ばれていた。</p> <p>「仮想」という言葉は Network の研究者が採用した概念 Virtual Memory の訳語として採用され「仮想とは虚であり、実質的には実の働きをするもの」という概念であるが元々 Virtual にこの意味は存在しなかった。</p> <p>しかし現在インターネットなどで「virtual」の意味を検索すると「仮想的」「擬似的」という意味しか出てこない。世界的に見ても日本は Virtual Reality の研究が盛んであるが、本来の意図とは離れた概念が形成されていることに疑念を持つ研究者もいる。</p> <p>以上のことを前提に、現在 Virtual Reality として一般に供給されているコンテンツがユーザーにどのような概念を提供しようと考え、本来の概念との違い、それによってどのような社会的影響が考えられるかについて論じなさい。</p>
課題2	<p>様々な政策課題への対応のために、市民（住民）の協力は不可欠である。市民の関心や行動を喚起するために、多くの政策領域で啓発キャンペーン等の個別事業が実施されている。その施策効果を高めるために実施の際に注意すべき点や、施策自体の限界、その限界を乗り越えるための方策や工夫について、あなたの考えを述べなさい。</p>